

ボローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2023 年 9 月）

文化政策学部 芸術文化学科 3 年 尾高美海

〔はじめに〕

みなさま初めまして。芸術文化学科の尾高美海と申します。2023 年 9 月から約半年間、イタリア・ボローニャ大学に留学いたします。

私は幼い頃からピアノや声楽、ギターなど音楽で溢れた生活を送っており、大学進路を決定した際から芸術色豊かなイタリアへの留学に憧れていました。夢を叶えるべくバイトの掛け持ちと勉学の両立は大変でしたが、半年という非常に貴重な時間を頂くことが出来ましたので、一日一日を大切に過ごしたいと思います。半年間どうぞよろしく願いいたします。

〔出発～諸手続き〕

私は今回海外が初めての経験でした。当初の出発予定時刻から二時間の遅延を経て 9 月 2 日午前 2 時に出国、ドバイを経由し無事ボローニャへ到着しました。こちらに着いてからの約一週間は、TAX コードの取得や滞在許可証、大学のチェックインとボローニャを駆け回る日々でした。大学のチェックインはオンライン上で行ったのですが、これが一番苦労しました。受付時間丁度に入室出来たのにもかかわらず、パソコン操作が苦手な私は接続に手こずり、それでも担当の方がとても親切に下さったおかげで接続できるまで何度もトライし無事に手続きを済ませることができました。

〔大学について〕

大学の講義は第三週目から始まりました。私は現在、中世美術と Italian culture の二つを受講しています。本来は、ロマン派音楽や teatro で開かれる音楽史などの受講が希望でしたが、それらは全て後期に開講されるとのことでした。中世美術はイタリア語で授業が進められます。日本の大学でもともと西洋美術を受講していた為、映し出される絵画はわかるのですが『聞き取れない... !!』とよくパンクしています。そのため、今は先生が発した言葉をとにかくノートに書き出し、後で辞書で調べるなどして理解しています。Italian culture は留学生向けに開講された講義で、英語で進められます。開講時間が 20 時～22 時のため朝型人間の私にとっては戸惑いでしたが、夜の centro ボローニャを肌で感じられることが新鮮で本当に嬉しいです。22 時のボローニャはたくさんの人や音楽で賑わっています。

[生活について]

この1ヶ月は手続きに追われながらも充実した日々を送ることができたと感じております。大学で知り合ったイタリアの友人と bar で会話を楽しんだり、また日本語を学んでいるイタリアの学生たちと出会ったりもしました。彼らとは大学で開かれたフェスに参加し、互いの文化や言語を交換するなど非常に有意義な時間を過ごしました。

私はイタリア人のコミュニケーション文化が大好きです。一人で bar に行った際には必ず『ciao』から始まりコーヒーを飲み終えるまで会話を楽しめます。まだまだ言語のアウトプットに苦勞しているため、「今大学で勉強していること、おすすめの場所ある？」など前もって準備して行っていますが、10月からは普通の会話も楽しめるように頑張りたいです。

コミュニケーション文化と先に述べましたが、特に感情表現の豊かさに触れた日はイタリアの風土を強く感じられ、印象に残っています。ヴェネツィアを訪れた日、朝のバスから帰りの電車まで何人ものイタリアの方が『Che Bellissima! Che bella!』と洋服を褒めてくれたのです。日本で同じように着いていても声をかけられることは無かったので、このような感情表現の豊かさが素敵だなと思います。



↑ Venezia にて



↑ サント・ステファノ広場

[10月の目標]

10月から大学の講義に加え大学附属の語学学校が始まるため、語彙を増やし対話できる場へ赴くなど、ポジティブな姿勢を継続させていきます。